

# 中学校教科等研修講座(英語科)

教科等指導員 伊丹市立天王寺川中学校 教諭 奥村 優一

担当指導主事：塩家 崇生

キーワード：話すこと 発表 発音指導

## 1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
2月6日(火)	天王寺川中学校 奥村 優一教諭	天王寺川中学校 4階多目的室 授業公開	「発音に留意した授業実践（第2学年）」

## 2 主な内容

「発音に留意した授業実践（第2学年）」

新学習指導要領の中で、五つの領域「聞くこと、読むこと、話すこと（やりとり）、話すこと（発表）、書くこと」が明記された。その中で話すこと（発表）に焦点をあて、プレゼンテーションを発表するために作成した原稿を正しく発音し、原稿を見ずに言えることを目標にした授業を実践した。発音に留意するために、授業の導入時からALTのアルファベット発音時の画像やプレゼンテーションの冒頭文の動画をICTを活用し、各個人に貸し与えている手鏡を用いて口の形に注意させながら繰り返し、音読をさせた。そこからプレゼンテーション原稿を覚えるために、個人、ペア活動を通して、様々な音読活動を行った。



## 3 成果と課題

### (1) 成果

- ① 授業の中で発音に留意した活動を入れることで、正しい発音をしようと意識する生徒が増えた。あるクラスでは音読の確認を1人ずつした際に、1回目は8人が「良い発音を意識している」の評価を得た。2回目になると19人の生徒に同じ評価をつけることができた。今まで英語らしい発音を意識してなかった生徒が正しい発音をし、評価を受けることで英語学習への楽しみを見いだせるようになってきた。
- ② ALTとの授業の中で発音チェックを設け、褒められたり、話した英語が通じたりすることで自分の英語に自信を持てるようになった生徒が増えてきた。テストでは点数が取れない生徒も音読活動に一生懸命取り組む姿勢を授業内で見ることが出来るようになってきた。

### (2) 課題

- ① 発音を意識した授業への取り組みを始めた時期が2学年の2学期末だったため、生徒全体に意識づけをすることができかった。そのため、プレゼンテーション原稿を音読する際に、発音に留意すべきアルファベット、リンキング、弱化、強調などに意識がいかない生徒が多くいた。
- ② プレゼンテーション暗唱することに生徒全体の注意がいきってしまい、お互いに確認し合う内容も「正しい発音をしているか」ではなく、「覚えているか」になった。日常から課題設定をする中で何を大切にするのかをしっかりと示す必要がある。また、事後協議の中で正しい発音をしているかを生徒同士で確認するという事は難しさがあるのではないかと指摘を受けた。ALTや英語教員が定期的に発音の確認をする時間を設けていく必要がある。